

いわて平泉米だより

低温時の対策について！

稲が低温に対して弱い時期は、2回～3回ほどあります。これらの時期で一般には、20℃以下になると危険と言われていますが、17℃が2～3日続くような場合や、12℃なら1晩でも障害がでます。

1回目は、出穂25～20日前（幼穂形成期、幼穂長2mm）でこの時期に低温になると、不完全花や奇形花が増え、籾数が減ります。

2回目は、出穂15～10日前（減数分裂期）で雄しべの中で花粉を作り出し始める時期です。低温になると、減数分裂の過程が異常になり、正常な花粉ができず、出穂・開花しても花粉が不能なので、受精されないため、籾は実りません。



このため、気温が17℃を下回る場合、幼穂形成期を向かえる前の前歴深水かんがい※から、幼穂形成期の深水管理（水深10cm）や減数分裂期の深水管理（水深15cm以上）により幼穂を保護する必要がある。

※ 前歴深水かんがいは、幼穂形成期の2～3日前から入水（水深4cm～6cm）し、少しずつならして障害を回避する方法です。